



TITLE:

中歐經濟同盟說二就テ

AUTHOR(S):

小川, 郷太郎

CITATION:

小川, 郷太郎. 中歐經濟同盟說二就テ. 經濟論叢 1916, 2(2): 299-305

ISSUE DATE:

1916-02

URL:

<https://doi.org/10.14989/126954>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號二第

卷二第

論說

●戸數割及戸別割ヲ論ズ

法學博士 神戸 正雄

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(一)

講師 米田庄太郎

●民族的自覺ト植民地土民ノ教育

助教授 山本美越乃

研究

●不換紙幣ノ價格ニ就テ

法學博士 戸田 海市

●大藏省證券ノ割引歩合ニ就テ

法學士 三木 純吉

●保險學說ノ發展(二、完)

法學士 小島昌太郎

雜錄

●中田公直氏遺著「佐藤信淵ノ農政學說」

同志社大學教授 瀧本 誠一

●米ノ生産費ニ就テ

助教授 河田 嗣郎

●商業道德ト時勢ノ變

法學博士 神戶 正雄

●家庭ニ關スル新統計調査例

教授 財部 靜治

●中歐經濟同盟說ニ就テ

法學博士 小川 郷太郎

●幼兒死亡ト貧困

法學博士 河上 肇

●米國ニ於ケル各國移民ノ消長

助教授 山本美越乃

●小國ノ將來

講師 高田 保馬

●紹介——祖國ヲ顧ミテ(河上博士著)孤立國(谷井法學士譯)蘇峰文選(德富猪一郎著)

中歐經濟同盟說ニ就テ

法學博士 小川 郷太郎

一 戰後ノ經濟ハドウナルデアラウカ、戰後各國ハドンナ經濟政策ヲトルニ至ルデアラウカト云フコトハ、面白キ問題デアル、特ニ戰後ニ於ケル獨逸ノ經濟如何、經濟政策如何ト云フ問題ハ面白イ、此問題ハ獨逸デ盛ニ討議セラレ研究

セラレツアルヤウデアル、其中デ最モ注目ニ價スルモノハ中歐經濟同盟說若クハ中歐關稅同盟說デアル。

Jaffeノ如キハ、獨逸デハ、戰後ニ於テモ、戰時ニ於ケルカ如ク經濟上ニ軍國主義ガ行ハルヘキダト云フテ居ルガ、其思想ヲ推シツメテ行ケバ中歐經濟同盟說トモナツテ來ル、現ニ其戰後ノ經濟政策ニ就テハ具體案トシテソウ云フコトヲ云フテ居ル。^{*}

兎ニ角今日獨逸デハ、中歐經濟同盟說若クハ中歐關稅同盟說ハ非常ニ擴カツテ來、學者政治家ノ團體ノ意見トナリテモアラハレ、社會ヲ動かサントシテ居ル、昨年ノ夏頃ニハ、伯林デ中歐經濟同盟會議ガ催サレ、又十一月ニハ維納ニテ中歐經濟同盟會議ガ開カレテ居ル。

併シ中歐關稅同盟說ハ今回初テ起ツタ思想デナイ、既ニ十數年前ニ於テモ盛ニ唱ヘラレタ說デアル、今日ノ此說ハ其當時ノ說ノ再興ト見テヨイ、處デ其由テ來ツタ所ノ動機ハ如何ト云フニ、多少異テ居ル、十數年前ノ說ハ、保護貿易

政策ガ到ル處ニ行ハレルヨリシテ、獨逸ノ工業ガ其販路ヲ確保シ得ナイデハナイカト恐レタカラデアツタ、今回ノ說ハ戰爭ノ齎シ來ツタ直接ノ教訓デアル、前ノハ先覺者ノ警醒ノ聲ニ過キナカツタガ、今回ノハ先覺者ノ警醒ニ止ラナイデ、世人一般モ共鳴シ來テ戰後ニ實行セラルルコトモアラウカト思ハレル、此思想此運動ハ輕ニ看過スベキデナイ。

二 今回ノ中歐經濟同盟說ハ戰爭ノ齎シ來ツタ直接ノ教訓デアルト云ツタガ、然ラバ何故ソウデアルカ、尙少シク詳シク說カチバナラヌ。獨逸ハ今回ノ戰爭ニ於テ聯合軍ヨリ封鎖セラレ、物資ハ他國ニ仰クコトヲ得ナイ、自給經濟ヲ行フノ已ムナキニ至ツテ居ル、併シ一朝緩急アル場合ニ自給經濟ヲ行ハネバナラヌナラバ、平素ヨリ自給經濟ヲ行ヒ得ル様ニシテ置カチバナラヌ、從テ戰後ノ經濟政策ハ自給主義ノ上ニ建テラレチバナラヌ、斯ウ云フ考ガ獨逸ノ經濟學者并ニ政治家ノ頭ニ起ツテ來タ、處デ自給經濟ヲ行フニハ比較的廣キ地域ニ亘ラチバナラヌ、

* 本誌第一卷第三號獨逸經濟ノ軍國主義化參照

サラバト云フテ、中歐ヲ打シテ一國トナスコトハ、今日ヨリ論議スベキコトデナイ、ソコデ各國ノ主權ヲ存シ、此思想ヲ貫キ得ルモノナクテハナラヌ、是ニ於テ、中歐經濟同盟說ガ起ツテ來タ其經濟同盟ヲナス手段ハ關稅同盟デアル、故ニ又中歐關稅同盟ト云フ考トナリテアラハレテ來タ。

三 中歐經濟同盟說ノ由テ來ル所ハ此ノ如クデアアルガ、此根本主義ハ中歐人皆之ヲ拒ムマイ、然ルニ之ヲ實行スルコトニナルト獨逸ハ大ニ利シ、獨逸國ハ多少不利ノ結果ヲ生スルコトニナラウ、蓋シ關稅同盟ガ結バレルト、商業關係ニ於テハ殆下一國ト同シ様ニナリテ來、其領域内ニテハ工業品モ農業品モ人爲的障礙ナク自由ニ動クコトニナル、故ニ獨逸ノ工業品ハ獨逸ノ隅ノ隅迄ニモ流レテ行ハルウシ、獨逸國ノ穀物并ニ肉類ハ獨逸ニドシドシ這入ツテ行カウ、蓋シ獨逸デハ工業力進テ居リテ工業品ノ販路ヲ求メテハナラヌニ反シテ農業品ハ以テ國民ヲ養フニ足ラヌノデアアル、獨逸ノ工業ハ近來隨分進ミシモ到底

未ダ獨逸ト比肩スルニ足ラヌ、獨逸ニ至リテハ全然農業國ト云フテモヨイ位デアル、サウスルト中歐關稅同盟ガ結バレルト、獨逸ノ工業ハ愈々發達スルガ獨逸ノ工業ハ却テ發達ヲ妨グラレルコトニナラウ、是レ關稅同盟ガ獨逸ニ利ニシテ獨逸國ニ不利ナリト云フ所以デアル、ソコデ此同盟說ニ對シテ反對スルモノハ獨逸國デアラネハナラヌ、從テ此獨逸國ノ思潮如何ト云フコトガ此政策ノ成否ヲ定ムル上ニ與テ大ニ力ガアルデアラウ、仍テ余ハ此問題ノ前途ヲ豫想スル資料トシテ獨逸側ノ學者ノ說ヲ參考トシタイ。

四 獨逸國學者ノ意見ヲ見ルニ、根本主義ニ於テハ關稅同盟ニ贊成シテ居ル、只多少ノ制限ヲナサントスルノガ多イ様デアル Moritz Dub 氏ノ說ノ如キモ其一デアアル。氏ハ Schmoller 雜誌中ニ Zur Frage der Zollverein 題シテ論シテ居ル * 氏ハ獨逸國ヲ打シテ一ノ販路區域トスルコトハ獨逸ノ獨逸ノタメニヨイコトデアル許リデナク獨逸國ノ爲ニモヨイコトデアルト云ヒテ、原則トシテ關稅同盟ヲ是認シテ居ルガ、併シソレハ

* Schmollers Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung und Volkswirtschaft im Deutschen Reiche. Jg. 39. Heft. 3. S 277-293

急速ニ一飛ビニ遣ルベキデナイ、ソレニハ長イ間ノ準備ヲ必要トスル、過渡的時代ガナクテハナラヌ、塙匈國ガ純乎タル農業國デアツタ時代ナラBruck ヤ Philipovich ヤ Keller ノ説ノヤウニ塙匈國ヲ直チニ獨逸ノ關稅同盟ノ中ニ參加セシムレバヨカッタデアラウケレドモ、今ハ、塙匈國ニモ工業ガ起リカカツテ居ルカラ、ソウ云フ工合ニ行カヌ、工業ハ起リカカツテ居ルガ其多クハ未ダ獨逸ノ敵デナイ、故ニ戰後ニ至リ獨逸間ノ關稅ヲ全ク撤セバ塙匈ノ多クノ工業ハ戰爭ニヨリテ打擊ヲ受ケ恢復ヲナスニ暇ナキニ際シ更ニ又大打撃ヲ受クルコトナリ一敗亦起ツコト能ハサルニ至リ、恐慌ガ起ラウ、故ニ塙匈ノ工業ニ對シテ、戰後ニモ關稅ヲ存シ、徐ロニ力ヲ養ハシメ子バナラヌ、ソコデ關稅同盟ニモ過渡的時代ヲ置カ子バナラヌ。

然ラバ其過渡的時代ニハドウスルカト云フニ獨逸匈國間ニハ互ニ特惠關稅ヲ課シ、其他ノ國即チ英佛露伊米等ニ對シテハ高キ關稅率ヲ課スルノデアル、ソコデ獨、塙匈ハ互ニ二ノ方面ニ努力

セ子バナラヌ。

其第一ハ外國ニ對シ同一ノ關稅率ヲ定ムルコトデアル、併シソレハ容易デナイ、前戰ハ獨逸工業品ノ輸出ヲナス國トナツテ居ッタガ塙匈國ハ內國市場ニ重心ヲ置テ居ッタ、戰後ノ商業政策ハ塙匈ニ於テモ輸出ヲ獎勵シ以テ獨逸ト共ニ進マ子バナラヌ、戰後多クノ國ハ關稅ニヨリ其市場ヲ閉鎖シ自國ノ工業ヲ養フコトニナラウ、獨逸ノ開拓スベキ最近市場ハ巴爾幹、土耳其、亞刺比亞ノ方面ニナクテハナラヌ、故ニ獨逸ハ是等ノ市場ヲ地方的ニ分チテ共同的ニ其開拓ニ力メ互ニ競爭セヌ様ニセ子バナラヌ、外國市場ノ分野ヲ定メルト相互國內デハ競爭スル要ガナクナルガ、併シ兩國ノ商人ハ常ニ必スシモ此理想ニヨリテ進ムトモ限ラヌ、例ヘハ獨逸工業者ガ塙匈市場デ安ク賣リテ競爭スルトセンニ、獨逸政府ハとらすとヤかるてつるニ干渉シテ塙匈ニ對スル輸出獎勵ヲヤメサセ、又ハ鐵道ノ運賃并ニ水路通過料ノ減率ニヨル輸出獎勵ハ塙匈ニ對シテハ控ヘル様ニセ子バナラヌ、兩國ノ大工業ハ

かるてつるヲ組ミ、販賣地域ヲ分割シテ居ルモノモアル、之ヲ他ノ種ノ工業ニモ擴ゲテ行カチバナラス、國家ハ法律ニヨリテ工業者ノ自助ニ保護ヲ與ヘ而モ亦一定ノ範圍ニ行動セシメチバナラス。然ルニ多クノ工業ニテハ獨逸ノ方ガ優リテ居リテ安ク生産セラレル、故ニ奧國ノ工業ヲ保護センガ爲メニハ、獨逸ヨリスル輸入ニ對シテモ少シノ關稅ヲ課セチバナナルマイ、併シ其關稅ハ特惠關稅デナクテハナラス、其稅率ハ、最惠國條款ヲ以テ他國ニ許スヤウノモノデハナラヌ、此クシテ兩國ノ爲ニ關稅上ヨリシテ親密ノ關係ヲ形クラチバナラス、コレガ他日完全ナル關稅同盟ニ達スル一着步デアル。

戰後ニハ此特惠關稅ヲ定メルコトニ着手シ、尋デ外國ニ對スル關稅ヲ定ムルコトニ進マチバナラス、今日ノ敵國并ニ中立國ニハ從來ノ稅率ヲ維持シ、英米等ノ產物デ而モ獨逸ノ產物ニ競爭セントスルモノニハ從來ノ稅率ヲ高メチバナラス、獨逸國ハ食料品并ニ工業品ニ於テ自給ノ道ヲ計リ只自國ニ產セザル貨物ノミヲ他國ヨリ

仰グノ策ニ出デチバナラス。之ニ反シテ兩國ノ間ノ取引ハ之ヲ密ニセチバナラス、之ガ爲ニハ内部關稅ハ可成絕對保護ヲ要スルモノニ限リテ之ヲ課シ他ハ或ハ全ク無稅トシ或ハ多少之ヲ課スルニシテモ稅率ヲ低クセチバナラス、例ヘバ獨逸側デハ農產品ノ輸入稅ノ如キ、奧國側デハ鐵ノ輸入稅ノ如キデアル、而シテ時ヲ經ルニ從テ次第々々ニ關稅ヲ廢スルコトニ進マチバナラス。

此對外關稅モ對內關稅モ兩國共同ニ討議シ研究シ、熟談ノ上デ之ヲ定メチバナラヌ併シ後者ハ前者ニ先タチバナラス、獨逸國ノ關稅同盟先ヅ成リテ他國ニ對スルノ關稅ヲ定ムルコトニ進マチバナラス。

此關稅同盟ハ久シク繼續スルモノデナクテハナラス、併シ如何程繼續スルモノニスルカハ大問題デアル、完全ナル關稅同盟ヲナスナラバ永久のニナスカ若クハ非常ニ長期ノモノトセチバナラス、過渡的時代ニ於ケル特惠關稅同盟ハ同ジ論法デハ行カヌサレバトテ一定ノ期限ヲ付シ

テ置テ其期間滿了ト同時ニ完全ナル關稅同盟ト
ナス様ニ定メルノハ不可デアル、其期間ノ滿了
ト共ニ壞ノ工業ガ進デ獨ノ工業ト比肩スルヤウ
ニナルカドウカ豫知スルコト出來ヌカラデア
ル、故ニ、特惠關稅同盟ハ一定ノ期限ヲ以テ結
ハチハナラス、將來ハ完全ナル關稅同盟ニ進マン
トノ理想ハ之ヲ明ニシテヨイガ其之ニ入ルヘキ
時期ヲ豫メ定メテハナラス。

戰後特惠關稅同盟ニ入ルトスルト、種々ノ困
難ナル問題ガ起ラウ、其一ハ兩國ガ貨幣ヲ異ニ
セルヨリ生スル問題デアル。其二ハ關稅ノ收入
ヲ如何ニ分タンカトノ問題デアル其三ハ輸出證
明書ニ關スル問題關稅自由區域ニ關スル問題等
デアリ、其四ハ獸疫ノ危險ヲ豫防スル爲ニ獸類
ノ輸入通過ヲドウスルカトノ問題デアリ其五ハ
稅關ノ組織ヲ新シキ原則ノ上ニ打立テルト云フ
問題デアル。

關稅同盟ヲ結フト、前述ノ如キ色々ノ難問題
モ起リ又其他ノ解決ヲ要スル種々ノ問題モ起ル
ソコデ關稅議會ヲ設ケ兩國ヨリ代議員ヲ派スル

コトニセントノ説ガ生レテ來ルガ、之レヲ實現
スルコトモ極テ困難デアラウ。

關稅同盟ノ理想ニ達スルハ急速ニ行カヌ前途
ハ頗ル遠遼デアルト云ハチバナラヌガ、併シ獨
塊匈、伊其他諸國トノ間ノ通商條約ハ一九一七
年末ヲ以テ滿期トナルカ故ニ一九一六年、一九
一七年ハ通商條約改訂ノ準備ニ費サレチバナラ
ヌ、通商條約改訂ハ前述ヘタルヤウノ趣旨デ行
ハレチバナラヌ、ソレニハ今日ヨリソレニ關ス
ル意見ヲ闢ハセナケレハナラス、思フニ塊國人
デ、獨逸ト急速ニ完全ナル關稅同盟ヲ結バン
トノ意見ヲ有スルモノハ專ラ輸出ニ從フ人、又ハ
無競爭ノ特殊品ヲ製スル人デアラウ、多クノ人
ハ、塊國ノ工業ガ獨逸ノ工業ノ爲ニ打撃ヲ受ケザ
ル丈ノ關稅ヲ課スルトシテ置ケハ特惠關稅同盟
ヲ結フト云フ意見ニ賛成スルデアラウ蓋シ塊國
ノ現在ノ關稅ハ高キニ過ギテ居ル之ヲ減スルコ
トハ出來ルカラデアアル、要スルニ問題ハ意思ノ
問題デアアル獨塊匈ガモット密接ニ結ビツカナケ
レバナラヌト切ニ感スルナラバ將來ニ於ケル經

濟的共同生活ノ形式ハ自ラ見出サルベキデアル

五 Morris Dub ハ獨塊間ニ完全ナル關稅同盟

ヲ結ブ前ニ先ツ取ルベキ道ハ特惠關稅同盟ニア
リトスルノデアル、畢竟今日塊國トノ間ニ行
ハレテ居ル所ノ關稅同盟ヲ移シ獨塊間ノ間ニモ
行フトスルノデアル、思フニ塊國ト塊國ハ經濟
上發達ノ程度ヲ異ニシテ居ル、ソレデ尙一種ノ
關稅同盟ガ結バレテ居ルトスレバ、塊國ト獨
逸トノ間ニ同シ種ノ關稅同盟ガ結バレヌトモ否
定スルコト出來ヌ、故ニ此說ハ極メテ穩健デ實
行シ得ラレルニ近イモノト云ハ子バナラス。

特惠關稅同盟ハ完全ナル關稅同盟デナイケレ
ドモ又完全ナル關稅同盟ニ達スル階段トモ見ル
コトカ出來ル、完全ナル關稅同盟ガ出來レバ又
政治上ニ相合體スルニ至ラストモ限ラヌ故ニ特
惠關稅同盟ニシテ一旦出來レバ獨塊ノ將來ニ少
ナカラヌ暗示ヲ與フルモノト見子バナルマイ。